キシラジン単独鎮静下における肋骨骨折不正癒合部開胸切除術

(株)益田大動物診療所
嶋田浩紀、山本哲也、原知也、
長崎雄太、足立全、岸本昌也、加藤大介
麻布大学内科学第三研究室
佐藤礼一郎

(株)益田大動物診療所

症例

- 交雑種（黒毛和種×ホルスタイン種）
- 雄去勢
- 7ヵ月齢（手術時）
- 初産牛産子
- 尾位上胎向のため牽引介助にて娩出

経過

- 1ヵ月齢にて、呼吸速拍、発咳、喘鳴を呈する。
- 触診にて右側第1～第4肋骨の肋軟骨部の骨折を認める。
- 抗炎症剤、気管支拡張剤による治療。

経過

- 発咳、喘鳴等の呼吸器症状
- 7ヵ月齢にて、第一胃鼓脹症を継発

↓

肋骨骨折不正癒合部による、
気管及び食道狭窄と診断

↓

肋骨切除術を実施

術式

- キシラジン（0.3mg/kg）にて鎮静
- 左側横臥位にて保定

術式

- 第二肋骨上の皮膚を切開
- 浅胸筋、深胸筋、胸直筋を切開分離

術式

- 骨折部位の確認
- 骨折部の骨膜は不明瞭

術式

- 気管、食道との位置関係を触診、目視にて確認しながら、複数回に分けて第一および第二肋骨を線鋸で切除

術式

- 肋骨切除部位

①食道
②気管

(Popesko,P.原図)

術式

- 切除した第一および第二肋骨

術式

- 肋骨切除部位

術式

- 胸腔内を抜気し閉胸

術後経過

- 翌日より発咳、喘鳴等の呼吸器症状の改善が認められた。
- 術後、第一胃鼓脹症の発症はみられない。
- 術創周囲に限局した軽度の皮下気腫を認めたが、次第に吸収された。

考察

肋骨骨折

↓

骨折部位の胸腔内変位

↓

前位肋骨による気管、食道の圧迫

↓

気管狭窄、食道狭窄

↓

喘鳴、第一胃鼓脹症の発症

呼吸器症状、第一胃鼓張症の改善には
第一及び第二肋骨の切除が有効

考察

キシラジン単独鎮静下での開胸手術が可能

- 牛では縦隔が厚く強固なため、開胸時、反対側の肺の自発呼吸が可能である。
- 多くの臨床現場にて実施可能である。
- 膿胸や心嚢炎など他の疾病にも応用可能であると考えられる。